

# 受けようがん検診



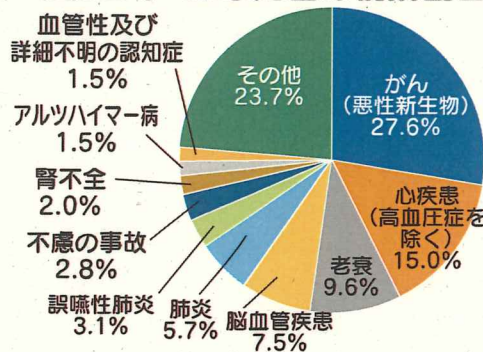
日本人の2人に1人が「がん」になります

日本人が一生のうちになんと診断される確率は男性65%、女性50.2%で、がんで死亡する確率は男性26.7%、女性17.8%です。(国立がん研究センターがん情報サービス「2018年、2019年のデータ」)

## 死因1位はがん

亡くなられた人の死因で最も多いのはがん(悪性新生物)です。令和2年度には27.6%を占めており、これは約4人に1人の割合です。

## 令和2年 主な死因の構成割合



出典：厚生労働省 令和2年(2020)人口動態統計月報年計(概数)の概況

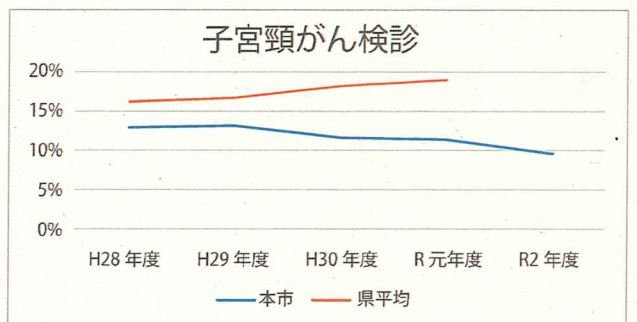
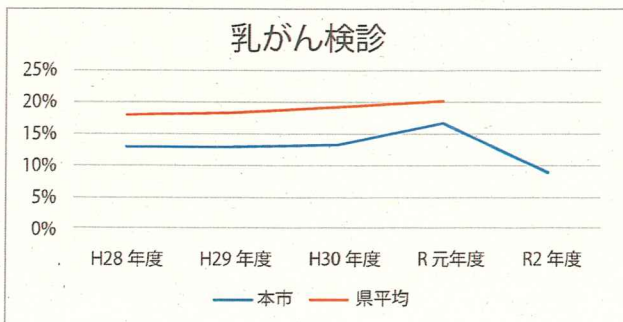
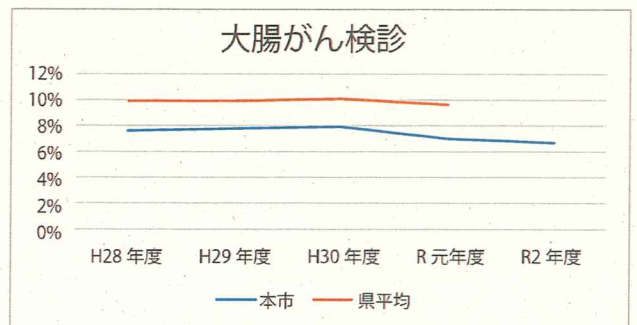
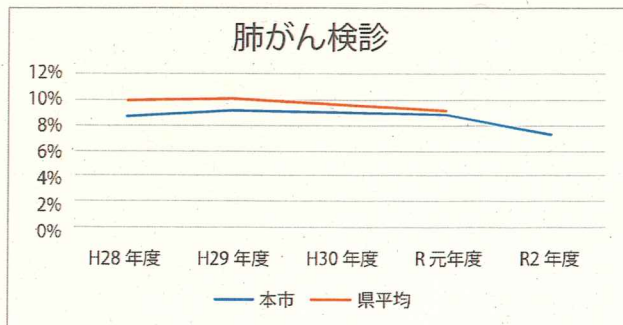
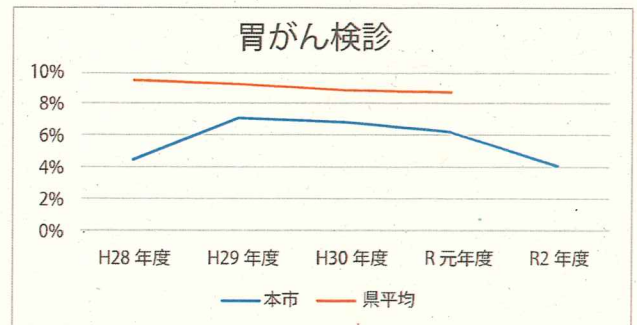
## 本市はがん検診の受診率が低い

下のグラフは、本市で実施しているがん検診の受診率です。全てのがん検診で県の平均を下回っています。

## 本市で実施しているがん検診受診率の県平均との比較

### 地域保健・健康増進事業報告より

令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大により、4月～5月の複合健診の延期や受診控えなどの影響で、さらに受診者が大きく減少しました。



# がんは早期発見が大切

がんを早期に発見できれば、治療の選択肢も多く、治療後の予後も良好といわれています。早期のがんは自覚症状がないため、がんを早期に発見できるよう、がん検診は元気の時に定期的に受けましょう。がん検診を行う会場では十分な感染防止対策をとっていますので、安心して受診してください。

## がん検診は毎年受けましょう

がんは発見できる大きさに限界があり、小さすぎるがんは発見が困難な一方、発見できる大きさになった状態からたった1年〜2年で早期がんのステージに進むといわれています。早期の発見・治療を可能にするためにも、1年に1回（がんの種類によっては2年に1回）の間隔で受けましょう。



## 本市で行っているがん検診

### 胃がん検診

バリウム（造影剤）と発泡剤（胃を膨らませる薬）を飲み、X線で胃の形や粘膜を撮影します。（年に1回）



40歳以上の男女

### 子宮頸がん検診

子宮の入口（頸部）の細胞を専用の器具で取って顕微鏡で診断する検査です。（2年に1回）



20歳以上の女性

### 大腸がん検診

便を専用のスティックでこすり、専用の容器に入れて提出します。便の中の血液を調べ、大腸内の出血の有無を調べます。（年に1回）



40歳以上の男女

### 乳がん検診

乳房を装置（マンモグラフィ）ではさみ、圧迫してX線撮影します。（2年に1回）



40歳以上の女性

### 肺がん・結核検診

胸部X線で撮影する検査です。\*問診の結果により喀痰検査を行います。痰にがん細胞が混ざっていないかを調べます。（年に1回）



40歳以上の男女

検診で大切な命を守りましょう



歯科衛生士  
八代いぐさちゃん



助産師  
せせらぎしょうがちゃんと  
ベビーしょうがちゃん

# 受診が早期発見につながった人に聞きました

## 自分と家族のために 毎年の受診を



市内在住の女性（30代）

令和元年にヤング健診を受診し、子宮頸がんが発見された。毎年、健診を受ける。手術で腫瘍を摘出した。

**検** 診は、結果が良くない時が嫌であまり気が進まず、会社の定期検診を受けるだけでした。6年前に夫の勧めで、市のヤング健診を夫婦で受診し、それから毎年受診するようにになりました。

ヤング健診（基本健診）と合わせて乳がん検診、子宮頸がん検診なども受けていたのですが、3年目の健診を受けた時でした。結果通知が郵送で届き、その封書の厚みに「ドキッ」としました。厚みがあると、精密検査の案内文が入っていて良くない結果の可能性があると思っていました。

封を開けてみると「子宮頸がんの疑いあり」にチェックが入っていました。私は父をがんで亡くし、母も

がんを患ったことがあるので、「疑い」ではなく「がんだ」と確信しました。頭の中が真っ白になり、「なんで私が」という思いと、当時2歳と5歳の子どもがいたので「この子たちを残して死ぬわけにはいかない」と強い思いにかられました。すぐに病院で組織検査をし、超早期発見の子宮頸がんと診断されたのですが、当時の記憶はあまりなく、事柄が淡々と進んでいくような感じだったように思います。

早期発見だったこともあり、手術は無事に成功したのですが、手術前には「子どもたちにはもう会えないのではないか。これが最後かもしれない」など不安が大きくなり、とてもピリピリしていました。

当時は振り返って思うことは、検診を毎年受けていてよかったということです。結果が良くないことを考えると受診は怖いですが、それでも手遅れになってはいけません。父は、がんが見つかったときにはステージ4で手遅れでした。生前、父は「しもたじゃあからん。おがごつなっぞ」と言っていました。この言葉は、今でも私たち家族の中でしっかりと生きています。

検診は、年に1度の自分のメンテナンスだと思って、ぜひ皆さんに受けてほしいです。

自分のために、そして家族のために、私は今年も検診を受けます。

# 結果を恐れず 積極的に受診して



市内在住の女性（70代）

令和2年に市のがん検診を受診し、乳がんが発見された。毎年、健診を受ける。手術で腫瘍を摘出した。

**が**んと聞いたときは頭が真っ白になりました。自分もがんになるかもしれないと思ってはいましたが、実際にがんを宣告されると言葉が出てきませんでした。幸い毎年検診を受けていたので見つかったがんはとても小さく、手術で腫瘍を摘出できました。

私はいつまでも健康でいたいと思います。毎年検診を受けています。検診は毎年受けることが大事です。早く病気が見つかったら、その後の治療が早く済んで、元気に過ごさうことができます。また、市で行っている検診は自己負担も少なく、複数の検診を受けても半日で終わります。

がんの発見が進行後になれば治療が大変になり、お金もかかります。自分だけの体だと思わず、結果を恐れず積極的に受診してください。私も、今後とも継続して受診します。

# 長く健康で過ごすために

健康で過ごすことは自分のためだけでなく、大切な家族のためでもあります。「自分はがんにかからない」と考えるのではなく「かかっていたら早く見つけて治そう」と考えてみてください。定期的に検診を受けて、自分の健康は自分で守りましょう。市では市民の皆さんの健康をサポートしています。不安なことや気になる症状があったら相談してください。

特集 受けようがん検診 終

